

☆ ミッドウエー海
戦・・・素人の素朴な
疑問

みさお

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

語りつくされた感のあるミッドウエー海戦ですが、素人の素朴な疑問を書いてみました……

〈珊瑚海海戦〉

日本：祥鳳・・・沈没、翔鶴・・・大破

米国：レキシントン・・・沈没、ヨークタウン・・・中破

海戦後、日本側は空母瑞鶴が無傷で残っていた。

なぜ、ヨークタウンを追撃しなかったのだろうか？

ここで、ヨークタウンを更に叩いて、一発でも爆弾なり魚雷なり命中させれば、沈没させられなくても、ミッドウェー海戦への参加を阻めたのではないだろうか……

目次

はじめに	1
〈珊瑚海海戦〉、〈大和型戦艦〉	5
〈K作戦〉、〈事前偵察〉	9

ミッドウエー海戦時に大和をもう少し有効活用できたのではないかという考えがあるがどうか？

大和を戦艦として有効活用するのではなく、いつそのこと空母にしておけばよかつたのだろう。

翔鶴型の空母なら建造時期的、予算的にも無理なく造れた筈だ。

もし、実際のあの戦場に翔鶴型空母が1隻あれば、もう少しましな防空体制が取れたかもしれない。

また、飛龍と一緒に反撃すれば、もう1隻程度は米空母を撃沈できたのではないか………

〈K作戦〉

もし、K作戦を実施せず、第2次K作戦だけを実施していたら？

フレンチフリゲート礁は無警戒の筈で、ハワイ方面の偵察は十分可能だったろう。

ハワイを外向する米空母は当然発見できた訳で、米空母ゼロと考えていた南雲中将の判断に、相당한影響を与えていた筈である。

例えば利根四号機による最初の米艦隊発見時に、報告に空母が含まれていなくても、攻撃命令を出したのでは………

〈事前偵察について〉

何故、日本軍は肝心のミッドウエー北東部を事前偵察しなかったのだろうか。

日本軍の最寄の基地であるウエーキ島からみて、島の影になって空母を隠すには絶好の位置であることは明らかなのに・・・

〈アリューシャン作戦〉

もし、アリューシャン作戦に投入した空母2隻、隼鷹、龍驤、がミッドウエーに投入されていたらどうだろう。

2隻合わせれば大型空母1隻に匹敵する戦力だ。更に戦闘機の配分を増やしておけばなおいい。

実際、龍驤は小型空母なのに戦闘機を24機も搭載していた時期もある。

この2隻があれば、機動部隊の防空に活躍し、ドーントレスを防げたのではないか……

〈空母瑞鶴〉

「珊瑚海海戦」にて、空母瑞鶴は無傷であった。

残った航空機は39機の使用可能機と17機の修理可能機の合計56機。

この戦力を何故ミッドウエーに使わなかったのか？

素人の素朴な疑問は続く……

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



〈珊瑚海海戦〉、〈大和型戦艦〉

〈珊瑚海海戦〉

ミッドウエー海戦海戦の約一ヶ月前。

1942年5月8日、珊瑚海海戦という戦いがある。

日本の空母は、翔鶴、瑞鶴、祥鳳

米国の空母は、レキシントンとヨークタウン

損害は、

日本：祥鳳・・・沈没、翔鶴・・・大破

米国：レキシントン・・・沈没、ヨークタウン・・・中破

海戦後、日本側は空母瑞鶴が無傷で残っていて、航空機は39機の使用可能機と17機の修理可能機という状態。

素人の素朴な疑問だが、なぜ、ヨークタウンを追撃しなかったのだろうか？

ここで、ヨークタウンを更に叩いて、一発でも爆弾なり魚雷なり命中させれば、沈没させられなくても、ミッドウエー海戦への参加を阻めたのではないだろうか。

〈大和型戦艦〉

ミッドウエー海戦時に大和をもう少し有効活用できたのではないかという考えがあるが、あまり同意できない。

空母の身代わりとして米軍の攻撃の的になるし、対空兵装で防空に活躍できたのではないかというものだろうが、米軍の攻撃は空母に集中しているし、実際の命令も空母攻撃が優先目標だった。

もし、戦場に大和がいても素通りするだろう。

また、対空兵装がハリネズミのように配置されていたイメージがあるが、沖縄特攻時の

12. 7cm連装高角砲：12基

25mm3連装機銃：52基

25mm単装機銃：6基

13mm連装機銃：2基

とは随分様子が異なり、当時は

12. 7cm連装高角砲：6基

25mm3連装機銃：8基

13mm連装機銃：2基

と、大して期待できるものではない。

大和を戦艦として有効活用するのではなく、いつそのこと空母にしておけばよかつたのだろう。

翔鶴型の空母なら建造時期的、予算的にも無理なく造れた筈だ。

排水量的には2隻分あるからもう1隻と欲張りしたいところだが、予算や空きドッグの問題から少し無理そうだ。

もし、実際のあの戦場に翔鶴型空母が1隻あれば、もう少しましな防空体制が取れたかもしれない。

また、飛龍と一緒に反撃すれば、もう1隻程度は米空母を撃沈できたのでは？

蛇足だが、武蔵も空母にすべきだったろう、時期的にミッドウェー海戦には間に合わないが、マリアナ沖海戦には間に合う筈だ。

ミッドウェーの結果が逆ならば、大和型戦艦2隻の空母化を加算して、マリアナでの現実の空母数

日本9：米15 が逆転し

日本15：米12 になる。

航空機の搭載数で大雑把にみると

日本500：米1,000 が

日本9000：米7500程度になるだろう。

零戦とF6Fの性能差を考慮しても、マリアナの七面鳥撃ちは起こらなかったのではないか？

素人の素朴な疑問である。

〈K作戦〉、〈事前偵察〉

ミッドウエー海戦の3ヶ月前。

1942年3月4日、ハワイを爆撃したK作戦というものがある。

ウオツゼ島から出撃し、途中で潜水艦による長波照射による誘導を受け、フレンチフリゲート礁で潜水艦から給油。

その後、ハワイを夜間爆撃したという、二式大艇による空前の長距離爆撃作戦である。

一式陸攻や九七式重爆ではとても実現不可能な、二式大艇の長大な航続性能、および飛行艇の特性を生かした海上での燃料補給という、驚異的な作戦だったが、見るべき成果はほとんどゼロだ。

落とした爆弾は、2機×4発の250Kg爆弾

爆撃目標は、湾内の船舶やドック、燃料タンク等だったが、灯火管制のため戦果は何もない道路に穴を開けただけ。

何の見るべき成果もない。

米軍の警戒心を高めるだけだった。まあ、それが成果と言えなくもないが。

そして、ミッドウエー作戦の事前偵察にも、同じようにフレンチフリゲート礁で給油

して、ハワイ方面を偵察する筈だった。

第2次K作戦である。

しかし、これは実施されなかった。

米軍に最初のK作戦で、フレンチフリゲート礁を給油ポイントとしたことがバレたのである。

そして、米軍はこの地点の利用を阻止するため軍艦を派遣した。

日本の給油用潜水艦は米軍の軍艦をみてスゴスゴと引き返すしかなかった。

もし、K作戦を実施せず、第2次K作戦だけを実施していたら、どうだろう？

フレンチフリゲート礁は無警戒の筈で、ハワイ方面の偵察は十分可能だったろう。

ハワイを外向する米空母は当然発見できた訳で、米空母ゼロと考えていた南雲中将の判断に、相当な影響を与えていた筈である。

例えば利根四号機による最初の米艦隊発見時に、報告に空母が含まれていなくても、攻撃命令を出したのでは？

素人の素朴な疑問である。

〈事前偵察〉

今回はミッドウエー海戦の事前偵察について触れたい。

何故、日本軍は肝心のミッドウエー北東部を事前偵察しなかったのだろうか。

日本軍の最寄の基地であるウエーキ島からみて、島の影になつて空母を隠すには絶好の位置であることは明らかなのに・・・

二式大艇によるハワイ方面の偵察するK2作戦の未実施については、「第3章K作戦」にて述べた。

しかし、その計画とは別に二式大艇による事前偵察は、ミッドウエー方面の偵察もあつて、これは実施されている。

ただし、肝心のミッドウエー北東部は除外された。帰投時刻が夜間となつてしまい、実施困難と判断されたためである。

しかし、ここで二式大艇を使い捨て覚悟で偵察を実施していたら？

2ヶ月前の東京初空襲で米軍はB25を使い捨てしている。だが、そんな大胆な発想は日本軍にはなかった。

もつとも、陸上と違い誘導灯が使用できない海上での夜間着水は危険であり、機体が破損するだけではなく搭乗員も無事ではすまないかもしれない。

また、他に潜水艦による事前偵察も実施されている。

だが、手配が上手くいかず、海域への到着が遅れてしまった。

もし、計画通りなら予定海域で米空母を発見できたのでは？

蛇足となるが、素人考えの奇抜な案を一つ。

一式陸攻の爆弾層を燃料タンクに改造し、偵察型を作っておけばよかつたのではないだろうか？

ウエーキ島から飛ばせば、十分ミッドウエー北東部の偵察は可能だろうし、夜間着陸も問題ないだろう。

実際、大戦末期の特攻用赤とんぼなんかはドラム缶で急造した燃料タンクを増設している。

B29も偵察型のF13は燃料タンクを増設している。あながち荒唐無稽ではないと思うのだが・・・

素人の素朴な疑問である。